

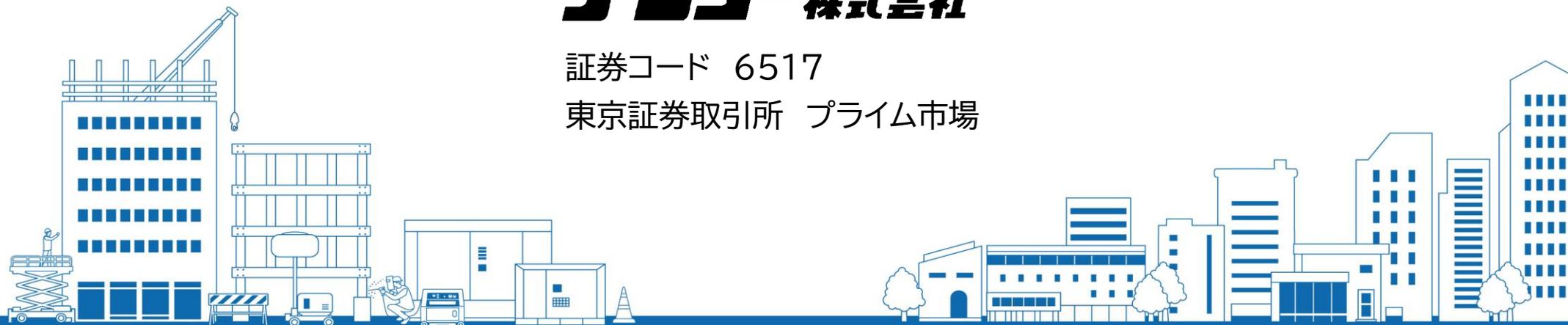


2025年3月期 決算説明資料

デンヨー株式会社

証券コード 6517

東京証券取引所 プライム市場



I. 2025年3月期 決算概要

II. 2026年3月期 通期見通し



I. 2025年3月期 決算概要



ポイント

- ・連結売上高は、主にアメリカ向けの出荷が減少し、前期を下回る。
- ・利益は、一部製品の価格改定や収益性の高い製品の出荷堅調により、前期を上回る。

(単位:百万円)

	2024年3月期		2025年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	73,140	100%	70,753	100%	△ 2,386	△ 3.3%
営業利益	7,089	9.7%	7,393	10.4%	303	4.3%
経常利益	7,378	10.1%	8,002	11.3%	624	8.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,095	7.0%	5,647	8.0%	552	10.8%
設備投資	1,913	—	6,218	—	4,305	
減価償却費	1,228	—	1,397	—	169	
1株当たり当期純利益	246.83円	—	274.02円	—	27.19円	
R O E	7.3%		7.5%			
1株当たり年間配当金	64.0円		75.0円			

概況

1. 発電機は 2,948百万円(4.8%)の減少。
2. 溶接機は 207百万円(4.7%)の増加。
3. コンプレッサは 209百万円(30.1%)の増加。

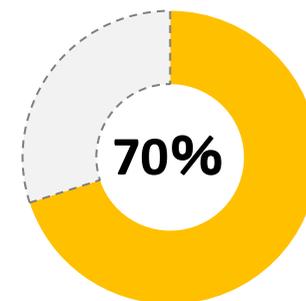
(単位:百万円)

		2024年3月期		2025年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		73,140	100%	70,753	100%	△ 2,386	△ 3.3%
製品別	発電機	61,487	84.1%	58,539	82.7%	△ 2,948	△ 4.8%
	溶接機	4,437	6.1%	4,645	6.6%	207	4.7%
	コンプレッサ	693	0.9%	903	1.3%	209	30.1%
	その他	6,521	8.9%	6,666	9.4%	145	2.2%



	2024年3月期	2025年3月期	前期比 増減率
発電機	61,487百万円	58,539百万円	△ 4.8%

- 国内は、中・大型の可搬形発電機の出荷が順調に推移。防災用の非常用発電機も堅調。
- 海外は、アメリカ市場向けが大幅に減少。



可搬形エンジン発電機の国内シェア

※当社調べによる(5年平均)



静音発電機
マーリエ



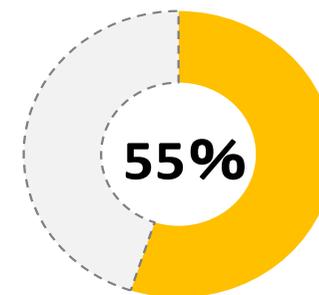
運転データ記録機能付
発電機

1kVAから1100kVA までのエンジン発電機を製造

- 可搬形発電機
建設現場、土木工事、災害復旧・復興などの動力源
- 非常用発電機(定置形)
防災設備やオフィスなどのバックアップ電源
- 電源車など

	2024年3月期	2025年3月期	前期比 増減率
溶 接 機	4,437百万円	4,645百万円	4.7%

- 海外向け小型溶接機の出荷が増加。



エンジン溶接機の国内シェア
※当社調べによる(5年平均)



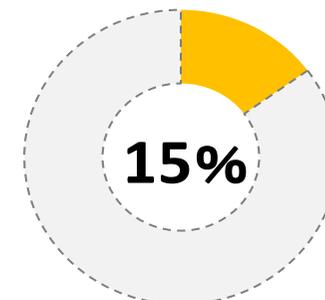
炭酸ガス溶接機

屋外作業の溶接機として当社が日本で初めて開発
 軽量鉄骨溶接用の135Aから重量鉄骨溶接用の500Aエンジン溶接機、
 およびTIG溶接機、炭酸ガス溶接機など

- ビルやマンション、橋梁などの鉄骨構造物の溶接
- 石油備蓄タンク、パイプラインなどの重要構造物の溶接

	2024年3月期	2025年3月期	前期比 増減率
コンプレッサ	693百万円	903百万円	30.1%

- 国内向けエンジンコンプレッサが増加。



エンジンコンプレッサの国内シェア
※当社調べによる(5年平均)



エンジンコンプレッサ



モータコンプレッサ

- 吐出空気量1.7m³/minから45.3m³/minまで製造
- 道路工事のはつり作業、地盤改良工事
 - 山岳道路の土砂崩れ防止のモルタル吹き付け工事
 - スキー場の人工降雪機用など

	2024年3月期	2025年3月期	前期比 増減率
その他	6,521百万円	6,666百万円	2.2%

- 国内向けの部品売上や非常用発電機のメンテナンス売上が増加。

その他の売上

- 高所作業車
- 負荷試験装置
- 部品売上
- 中古機や仕入商品売上
- 修理売上など



高所作業車

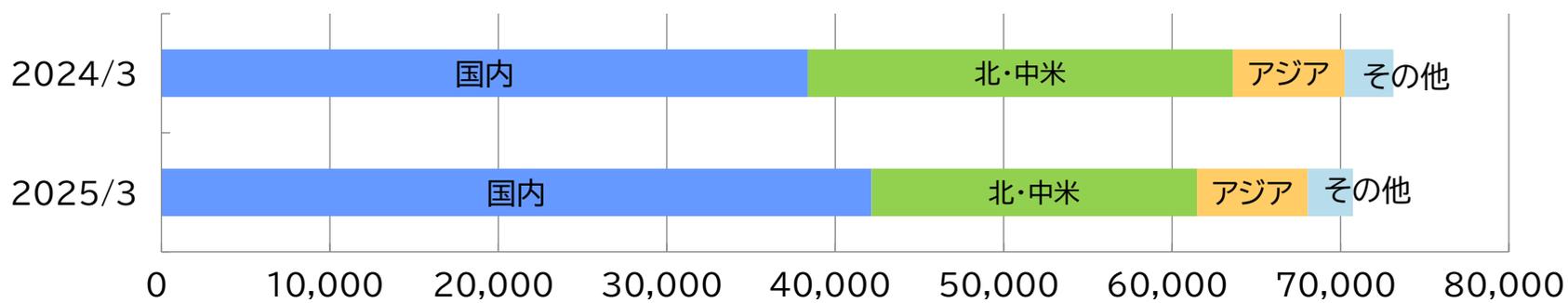


負荷試験装置



(単位:百万円)

		2024年3月期		2025年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		73,140	100%	70,753	100%	△ 2,386	△ 3.3%
国内売上高		38,389	52.5%	42,158	59.6%	3,768	9.8%
海外売上高		34,750	47.5%	28,595	40.4%	△ 6,155	△ 17.7%
地域別	アメリカ	25,230	34.5%	19,336	27.3%	△ 5,894	△ 23.4%
	アジア	6,642	9.1%	6,568	9.3%	△ 74	△ 1.1%
	その他	2,877	3.9%	2,690	3.8%	△ 186	△ 6.5%



営業利益増

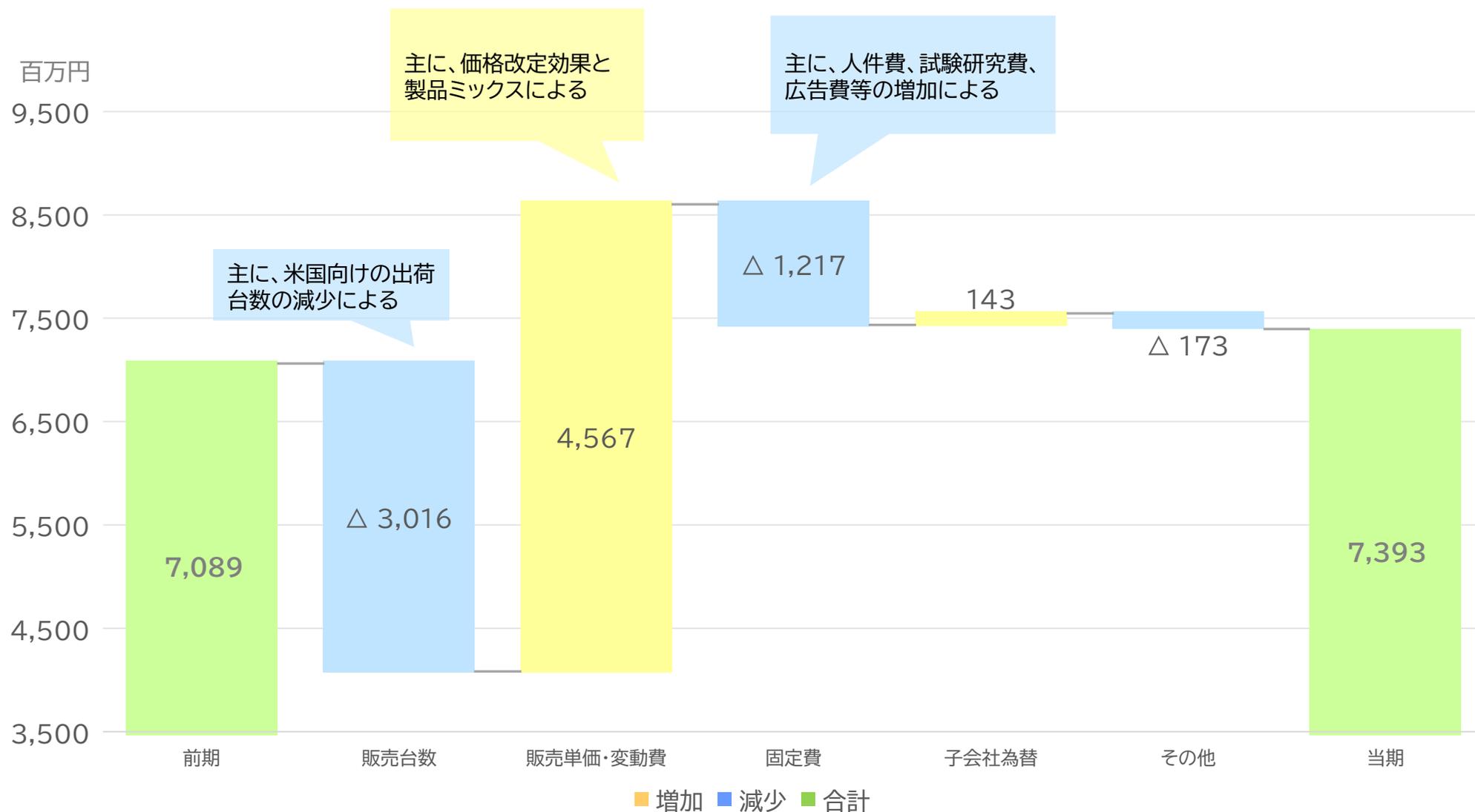
収益性の高い製品の出荷増加と原価上昇分の一部を販売価格に反映した効果により増加

(単位:百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	前期比 増減
営業利益	7,089	7,393	303
営業利益率	9.7%	10.4%	0.7 ポイント

	2024年3月期	2025年3月期	前期比 増減
売上総利益率	22.2%	25.1%	2.9 ポイント
売上高販管費比率	12.5%	14.7%	2.2 ポイント
売上高営業利益率	9.7%	10.4%	0.7 ポイント





概要

1. 流動資産 1,591百万円の減少は、主に売上債権などの減少による。
2. 固定資産4,153百万円の増加は、主に建物及び構築物の増加による。
3. 流動負債 2,699百万円の減少は、主に仕入債務などの減少による。

(単位:百万円)

	2024年3月 期末	2025年3月 期末	前期末比 増減額
流 動 資 産	68,239	66,647	△ 1,591
固 定 資 産	32,301	36,455	4,153
資 産 合 計	100,540	103,103	2,562
流 動 負 債	20,275	17,575	△ 2,699
固 定 負 債	4,421	4,868	446
負 債 合 計	24,697	22,444	△ 2,253
純 資 産 合 計	75,843	80,658	4,815
負 債 純 資 産 合 計	100,540	103,103	2,562



概要

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー7,315百万円は、主に税金等調整前当期純利益などの計上による。
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー△5,548百万円は、主に有形固定資産の取得による。
3. 現金及び現金同等物の残高は、468百万円増加。

(単位:百万円)

	2024年3月期	2025年3月期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,176	7,315
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,835	△ 5,548
I + II フリー・キャッシュ・フロー	2,341	1,767
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 819	△ 1,791
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	177	492
V 現金及び現金同等物の増減額	1,698	468
VI 現金及び現金同等物の期末残高	24,029	24,497

Ⅱ. 2026年3月期の見通し



2026年3月期予想～連結損益の見通し

ポイント

- ・売上高は720億円と予想。
- ・為替レートは、145円/ドルを想定。

(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	70,753	100%	72,000	100%	1,247	1.8%
営業利益	7,393	10.4%	7,300	10.1%	△ 93	△ 1.3%
経常利益	8,002	11.3%	7,700	10.7%	△ 302	△ 3.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,647	8.0%	5,100	7.1%	△ 547	△ 9.7%
設備投資	6,218	—	2,400	—	△ 3,818	
減価償却費	1,397	—	1,850	—	453	
1株当たり当期純利益	274.02円	—	249.29円	—	△ 24.73円	
R O E	7.5%		* 6.8%			
1株当たり配当金(円)	75.0円		80.0円			

*自己資本は前期末の金額で計算

概況

- ・国内は、建設需要が堅調に推移するものと予想。
- ・海外は、アメリカ市場が下期以降に回復することを予想。

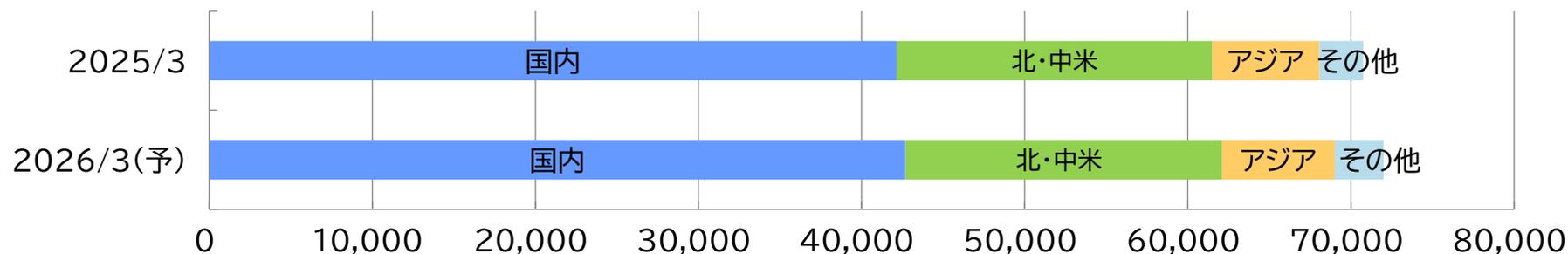
(単位:百万円)

		2025年3月期		2026年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		70,753	100%	72,000	100%	1,247	1.8%
製品別	発電機	58,539	82.7%	59,500	82.6%	961	1.6%
	溶接機	4,645	6.6%	4,850	6.7%	205	4.4%
	コンプレッサ	903	1.3%	950	1.3%	47	5.2%
	その他	6,666	9.4%	6,700	9.3%	34	0.5%



(単位:百万円)

		2025年3月期		2026年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		70,753	100%	72,000	100%	1,247	1.8%
国内売上高		42,158	59.6%	42,700	59.3%	542	1.3%
海外売上高		28,595	40.4%	29,300	40.7%	705	2.5%
地域別	アメリカ	19,336	27.3%	19,400	26.9%	64	0.3%
	アジア	6,568	9.3%	6,900	9.6%	332	5.1%
	その他	2,690	3.8%	3,000	4.2%	310	11.5%



営業利益減

売上総利益率の低下を見込む。

(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期(予)	前期比
営業利益	7,393	7,300	△ 93
営業利益率	10.4%	10.1%	△ 0.3 ポイント

	2025年3月期	2026年3月期(予)	前期比増減
売上総利益率	25.1%	24.6%	△ 0.5 ポイント
売上高販管費比率	14.7%	14.4%	△ 0.3 ポイント
売上高営業利益率	10.4%	10.1%	△ 0.3 ポイント

- 売上総利益率は、減価償却費や労務費の増加もあり、低下を見込む。



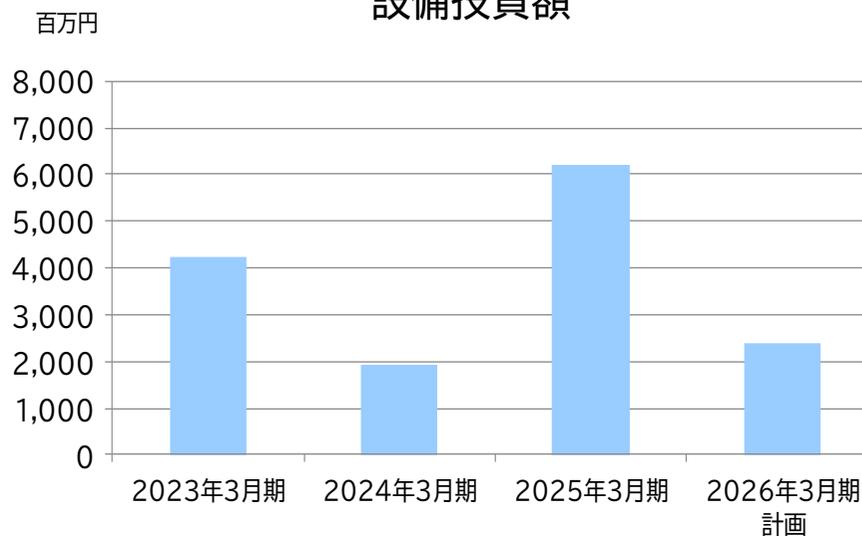
(単位:百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 計画
設備費	4,213	1,913	6,218	2,400
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 360 ・ニシハツ 2,500 ・アメリカ工場 20 ・ベトナム工場 70 ・その他 1,260 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 440 ・ニシハツ 190 ・アメリカ工場 170 ・ベトナム工場 20 ・その他 1,090 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 330 ・ニシハツ 4,290 ・アメリカ工場 60 ・ベトナム工場 20 ・その他 1,510 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 800 ・ニシハツ 30 ・アメリカ工場 90 ・ベトナム工場 130 ・その他 1,350



2025年1月に操業を開始したニシハツ新本社工場

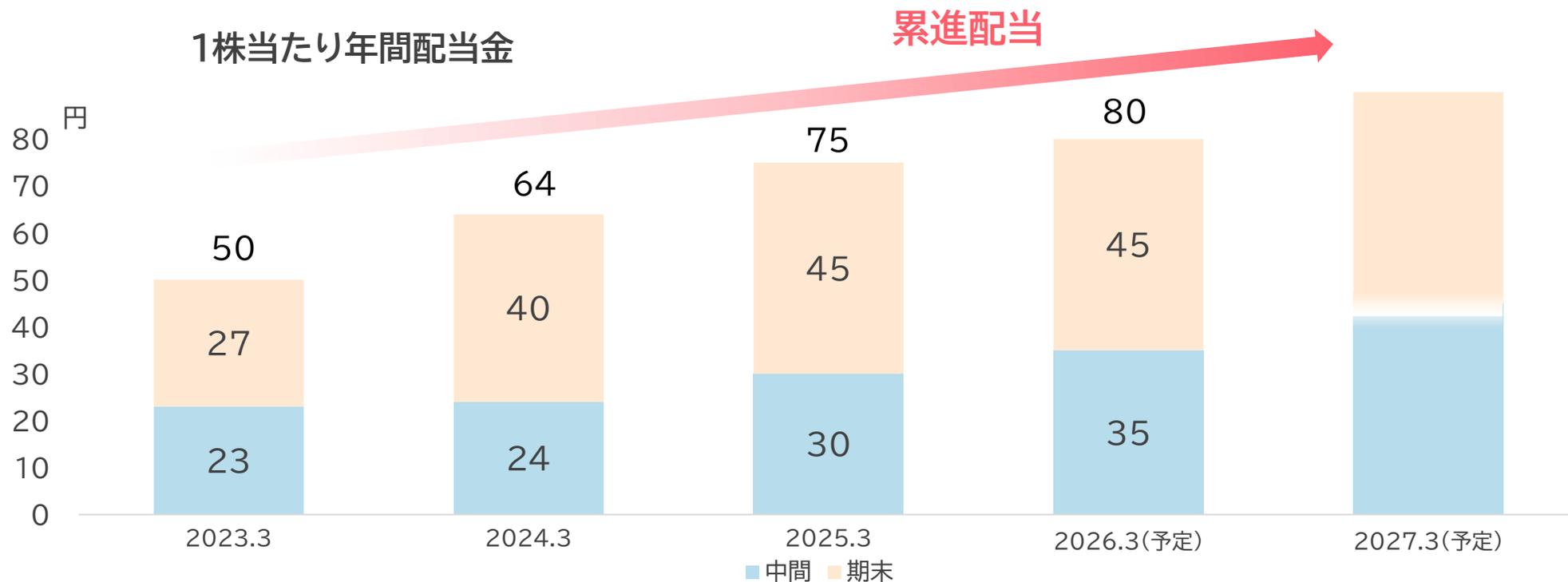
設備投資額



収益力の向上と財務体質の強化に努めながら、株主の皆様に対する利益の還元をより充実していくことが重要と認識し、**累進配当の継続**と**機動的な自己株式の取得**により、**総還元性向40%を目安**に成果配分を実施。

2025年3月期実績 ⇒ 総還元性向 37.9% *
 年間配当額 75円(中間30円、期末45円)
 自己株取得金額 538百万円

*総還元性向は、(配当支払総額+自己株取得総額)÷親会社株主に帰属する当期純利益×100で算出



2035年度長期ビジョンの達成に向けて、成長投資と経営基盤を強化し、
各分野での施策を着実に実行する

Denyo 2026 取組分野を4つに分類

中核
分野

安定収益を確保する分野

成長
分野

既存市場・製品の延長で成長し、短・中期的な視点で
収益拡大を目指す分野

挑戦
分野

グローバルサウス未開拓市場、新機軸の製品で成長し、
長期的な視点で収益拡大を目指す分野

組織能力
の強化

持続的な成長を支える生産・開発機能、人財、情報
システムの強化を目指す分野

長期ビジョン

2035年度
目標

売上 **1,000** 億円

経常利益 **120** 億円

ROE **8%**

持続的な成長を続け、
次のステージへの収益基盤を構築

	市場	戦略の方向性
中核分野	国内建設関連市場 (可搬形発電機、溶接機、コンプレッサ)	トップブランド製品を中心に国内シェアを維持向上し、安定収益を確保する ✓ 新製品の開発・投入によりシェアアップ・顧客拡大を目指す ✓ 教育体制の充実による販売力の強化を図る ✓ 東日本、西日本の大型修理拠点を活用し更なるサービス体制の充実を図る
成長分野	国内定置形発電機市場 (非常用発電機)	非常用発電機を中心にシェア拡大を目指す ✓ 国内グループ3社による連携強化 ✓ 防災用発電機を製造・販売する二シハツ新本社工場の投資効果の最大化 ✓ メンテナンス収益の拡大
	海外市場	海外販売網・サービス網を充実・拡大し、Denyoブランドの浸透を図る ✓ 既存製品による市場深耕・開拓を進める ✓ 新規開発製品による既存市場での拡販・開拓を図る ✓ アジア、中近東等の販売店網・サービス網を強化し、新たなニーズに対応
挑戦分野	グローバルサウス 未開拓市場	成長が期待される未開拓地域への進出 ✓ 未開拓地域進出に向け調査・検討を実施 ✓ M&Aを含めた進出先・進出形態の模索
	新機軸製品 (水素混焼発電機、燃料電池式可搬形発電装置)	新機軸製品の社会実装を目指す ✓ 新機軸製品の開発継続・推進 ✓ 営業、サービス、生産体制の準備
組織能力の強化	・開発・生産 ・情報システム ・人財	安定的に生産できる体制を構築 生産性・効率性の向上とセキュリティを両立したシステム構築 多様な人財が活躍できる体制づくり

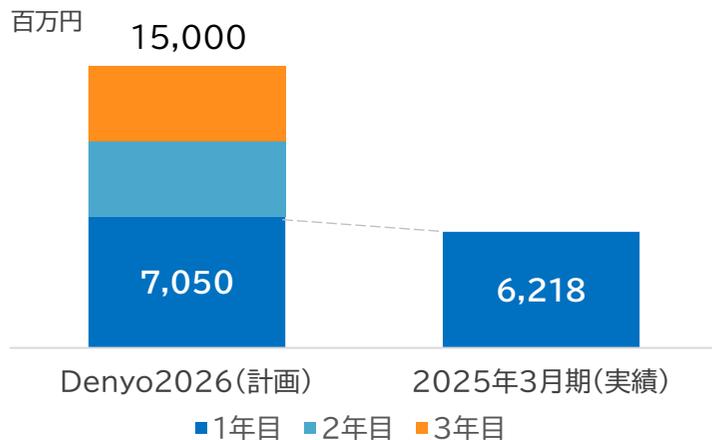
設備投資

持続的な成長の基盤づくりとして、国内拠点を中心に設備投資を実施

積極的な設備投資の実施

- ✓ 子会社 ニシハツ株式会社 新本社工場建設 (2025年1月より稼働開始)
- ✓ 西日本サービス拠点建設 (2025年4月より稼働開始)
- ✓ 福井工場の生産能力増強・合理化投資など (継続中)
- ✓ 情報システムへの投資 (継続中)

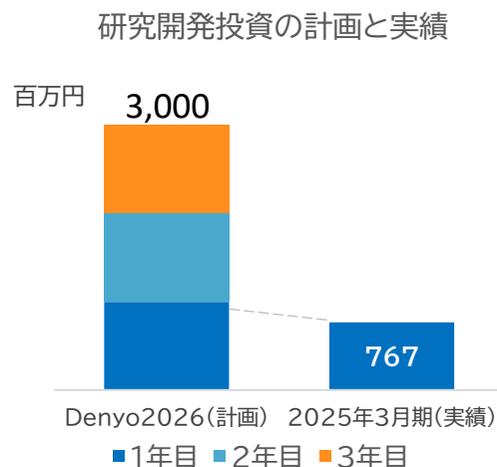
設備投資の計画と実績



研究開発投資 *

新技術を活用した製品や市場ニーズに応える製品、新機軸製品の研究開発を進める

主な取り組み状況



燃料電池式
可搬形発電装置



背負式バッテリー
溶接機 WELZACK



水素専焼発電機



水素混焼発電機

研究開発費の推移



*補助金などによる相殺の影響を除く

財務目標

- ① 売上高計画 **800**億円
- ② 経常利益 **80**億円 (10.0%)
- ③ ROE **7.0**%
- ④ 総還元性向 **40**%目安

非財務目標

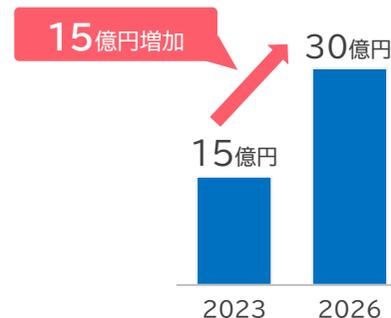
- ① 脱炭素製品売上高 **30**億円
- ② SCOPE1,2(長期目標) **50**%削減※1
- ③ 女性管理職比率(長期目標) **15**%※2

※1 2035年度長期ビジョン目標、国内グループ会社対象、売上高原単位
 ※2 2035年度長期ビジョン目標、デンヨー単体対象

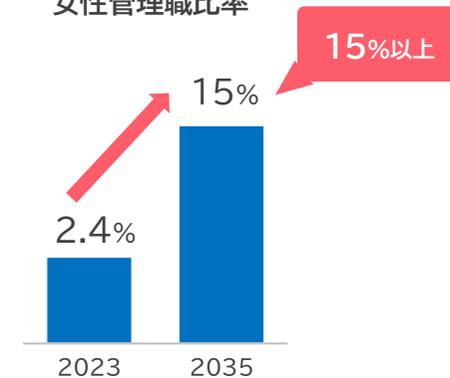
単位:百万円

	2023実績	中期経営計画	
		2026	増減額・率
連結売上高	73,140	80,000	6,860
経常利益	7,378	8,000	622
ROE	7.3%	7.0%	-
総還元性向	25.9%	40.0%	14.1%

脱炭素製品の連結売上



女性管理職比率



この資料には、2025年5月8日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれています。
今後の経済変動、競合状況などにより、実際の業績が予測と大幅に異なる可能性があります。

あくまでも、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。
投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

当社のIRに関するお問い合わせ先

経営企画室 藤本・後藤
電話：03-6861-1178
FAX:03-6861-1185



参考資料



エンジン発電機、エンジン溶接機など野外パワーソースのトップメーカー

沿革: 1948年7月2日	「日本電機溶接機材株式会社」として設立
1959年	我が国初の高速エンジン溶接機を開発、発売
1961年	エンジン発電機の生産、販売開始
1966年	防音型開発 デンヨー株式会社に社名変更
1983年	東証二部上場
2000年	東証一部上場
2022年	プライム市場に移行

会社規模など(2025/3期・連結ベース)

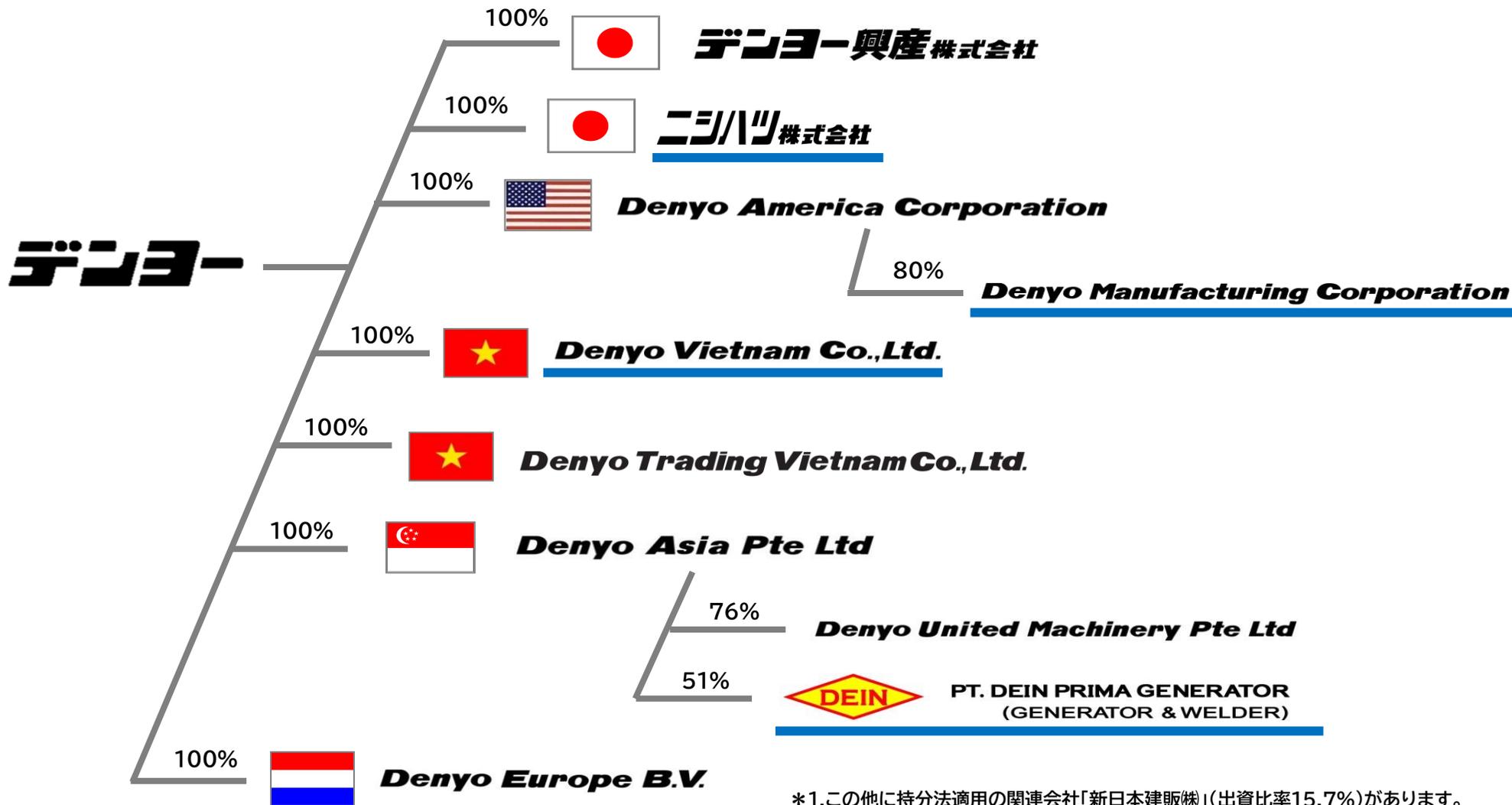
(単位:百万円)

売上高	70,753
うち海外売上高	28,595
経常利益	8,002
親会社株主に帰属する当期純利益	5,647
総資産	103,103
純資産	80,658
時価総額(3/31時点)	55,778
従業員数	1,377人



本社(日本橋堀留町)





*1.この他に持分法適用の関連会社「新日本建販株」(出資比率15.7%)があります。
2.下線の引いてある会社は製造会社となります。



野外パワースソースのパイオニアとして、エンジン発電機、溶接機、コンプレッサなどの製品を日本と世界150カ国以上の国と地域に提供

エンジン溶接機



- | | |
|------|---|
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 屋外で使用されるエンジン駆動の溶接機 |
| 使用用途 | <ul style="list-style-type: none"> 配管工事、橋梁、パイプラインなど、鉄材の溶接に使用 |

エンジンコンプレッサ



- | | |
|------|--|
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 気体を圧縮して、圧縮空気を生み出す。 電源の確保が必要ないため、あらゆる場所でエアーツールを使用することが可能 |
| 使用用途 | <ul style="list-style-type: none"> 削岩機、地盤改良用機械 コンクリート吹付工などに使用 |

エンジン発電機

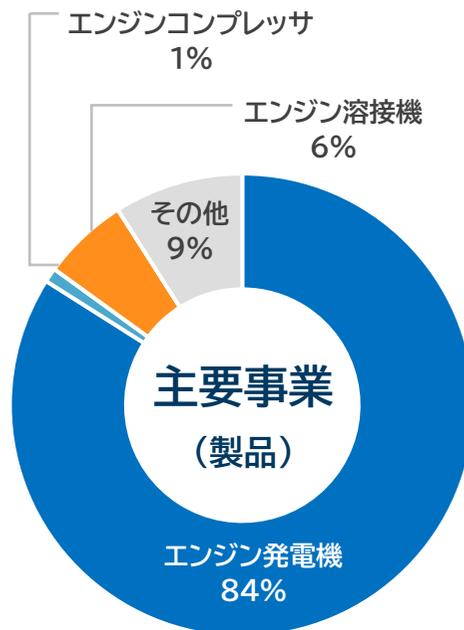


● 可搬形発電機

- | | |
|------|--|
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> トラックで運搬可能な発電機で、「移動可能な発電所」として、任意の場所で良質な電気を安定的に供給 1kVA～1100kVAまで幅広いラインナップ |
| 使用用途 | <ul style="list-style-type: none"> 土木・建設・港湾など工事現場 屋外イベント TV中継車など多種多様な現場で使用 |

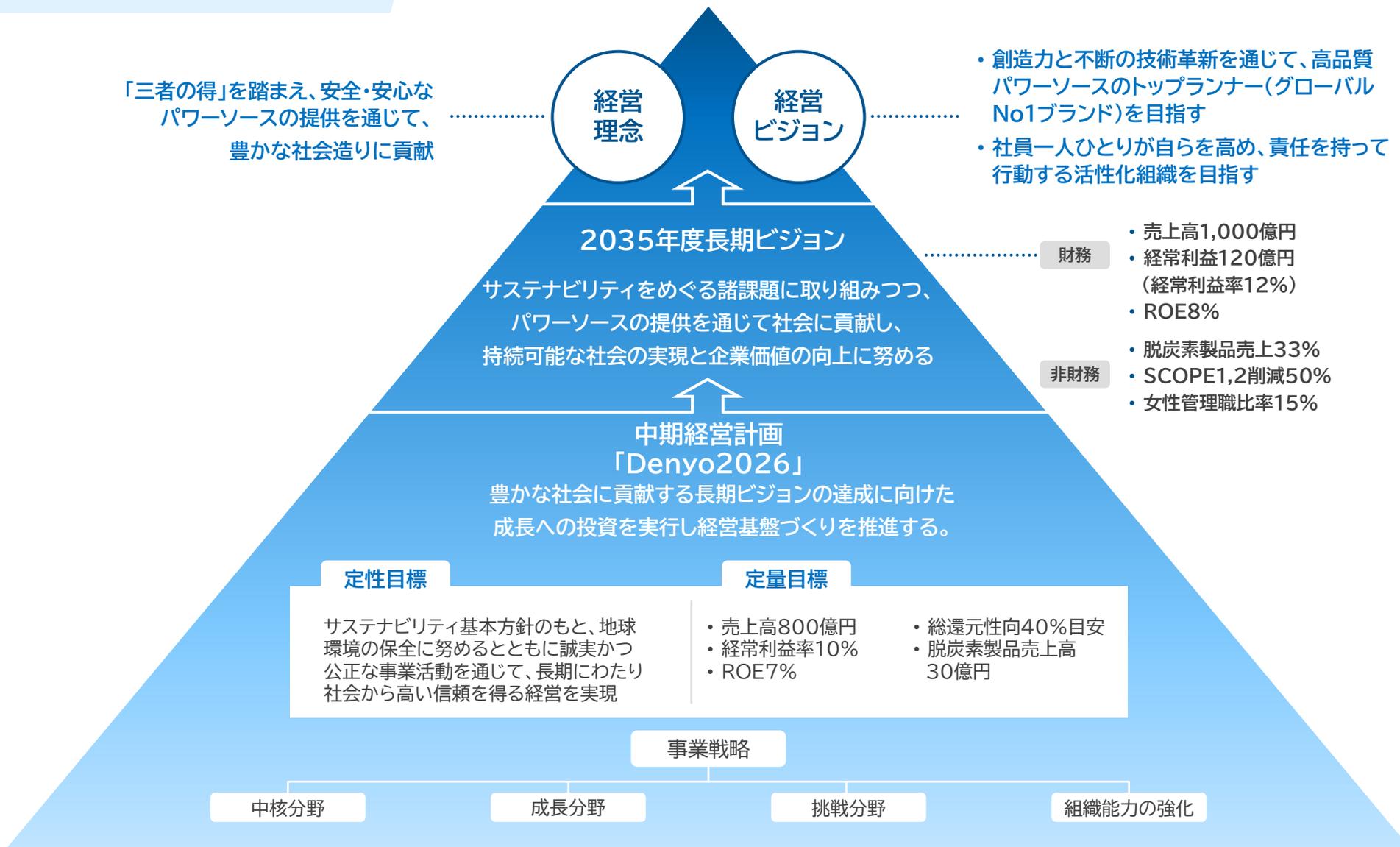
● 定置形発電機

- | | |
|------|---|
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 建物の屋上や地下などに据付けられる常用・非常用発電機 主に停電時のバックアップ電源として使用される非常用発電機を製造・販売 |
| 使用用途 | <ul style="list-style-type: none"> 防災用発電機
デパートやホテルなど不特定多数の人々が集まる建築物に設置され、スプリンクラーなどの消防設備のバックアップ電源として使用 一般停電用発電機
オフィスビル、工場や病院などに設置され、電気機器のバックアップ電源として使用 |



商号	デンヨー株式会社 Denyo Co.,Ltd.
創立	1948年7月
従業員数(連結)	596名(1,408名)2024年3月末現在

2035年度長期ビジョン新設



デンヨーは、地球環境問題を経営の重要な課題の一つとして位置付け、カーボンニュートラルへ向けた取り組みを積極的に推進してまいります。地球温暖化防止に向けたCO2排出量の削減や大気汚染防止のための一つとして、燃料電池をはじめとする水素社会への取り組みが有効であると考えています。



コマツ 小山工場に導入した水素混焼発電機

水素混焼発電機

- 販売を開始し、初号機をコマツ小山工場に納品
- 燃料に水素を最大 50%混合した発電が可能
- 軽油のみを燃料とする場合と比較してCO2の発生を最大50%削減
- コマツと株式会社日立製作所の技術供与により製品化に成功
- 水素サプライチェーンを構築するためのキープロダクトとして拡販

想定用途: 副生水素を活用した自家消費、停電対策用電源 等



水素専焼発電機

- 水素のみを燃料としCO2を排出しない
- ボリュームゾーンである45kVAクラスの開発から着手
- 2025年以降の市場投入を目指す

想定用途: 土木・建設・港湾工事、テレビ中継や各種イベント、レジャー 等



量産型 燃料電池式可搬形発電装置 (7kVA)

- 量産型の開発着手
 - FCスタック、エアコンプレッサ、水素循環ポンプなどパッケージ化
 - 実証試験機で得られた知見をもとに、小型軽量化を目指す
- 想定用途: 土木・建設工事、災害発生時の生活電源、テレビ中継や各種イベント等



燃料電池式可搬形発電装置 (3kVA)

- 帝人が展開するIntelligent Energy Limited製の燃料電池モジュール(*)を用いて3kVA級の水素燃料電池発電装置を開発

(*)水素燃料電池発電装置のコアとなる部品。外部から取り込んだ水素と酸素を化学反応させて電気を作り出す。

想定用途: 土木・建設・港湾工事、災害現場、野外イベント 等

モバイルバッテリー搭載LED投光機



想定用途: 夜間工事、イベント 等

- 騒音やCO2を排出しない
- 着脱できるカートリッジ式のリチウムイオンバッテリーを使用
- 長時間運転可能

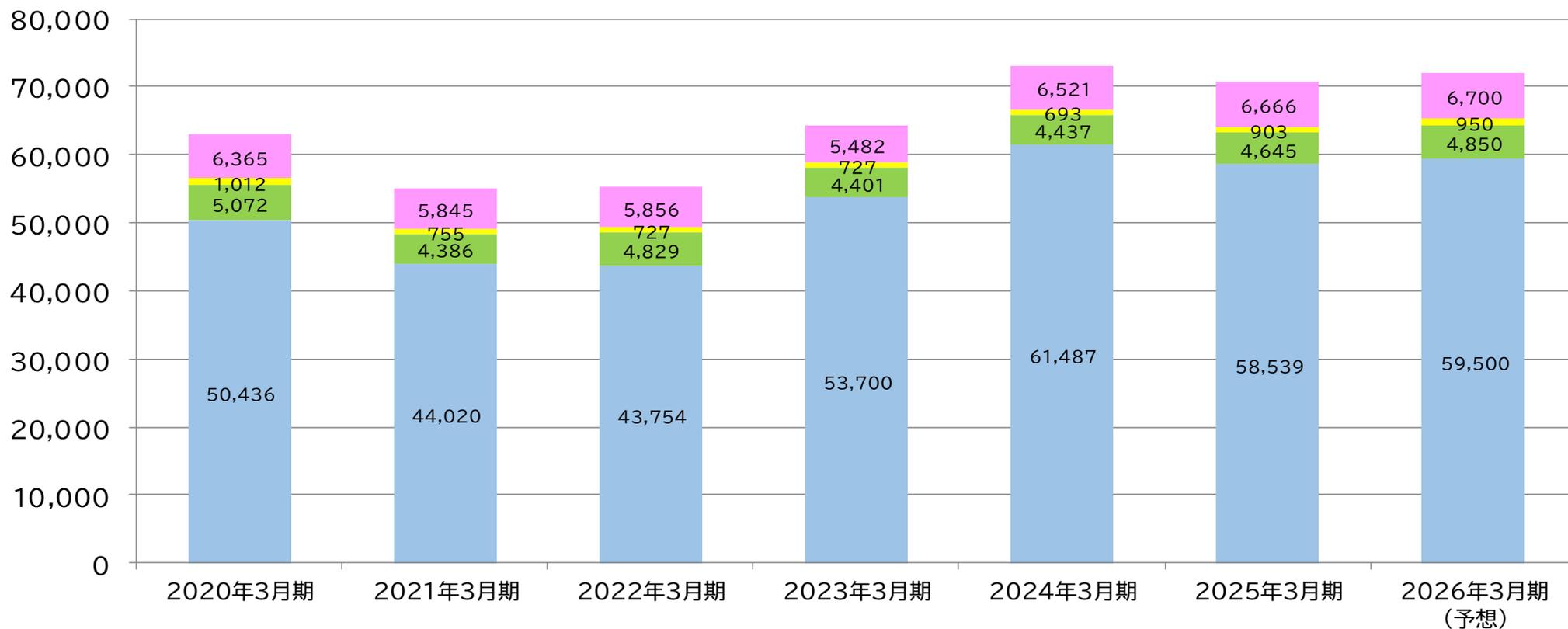
背負式バッテリー溶接機 WELZACK



想定用途: 階段や狭小部分での補修作業 等

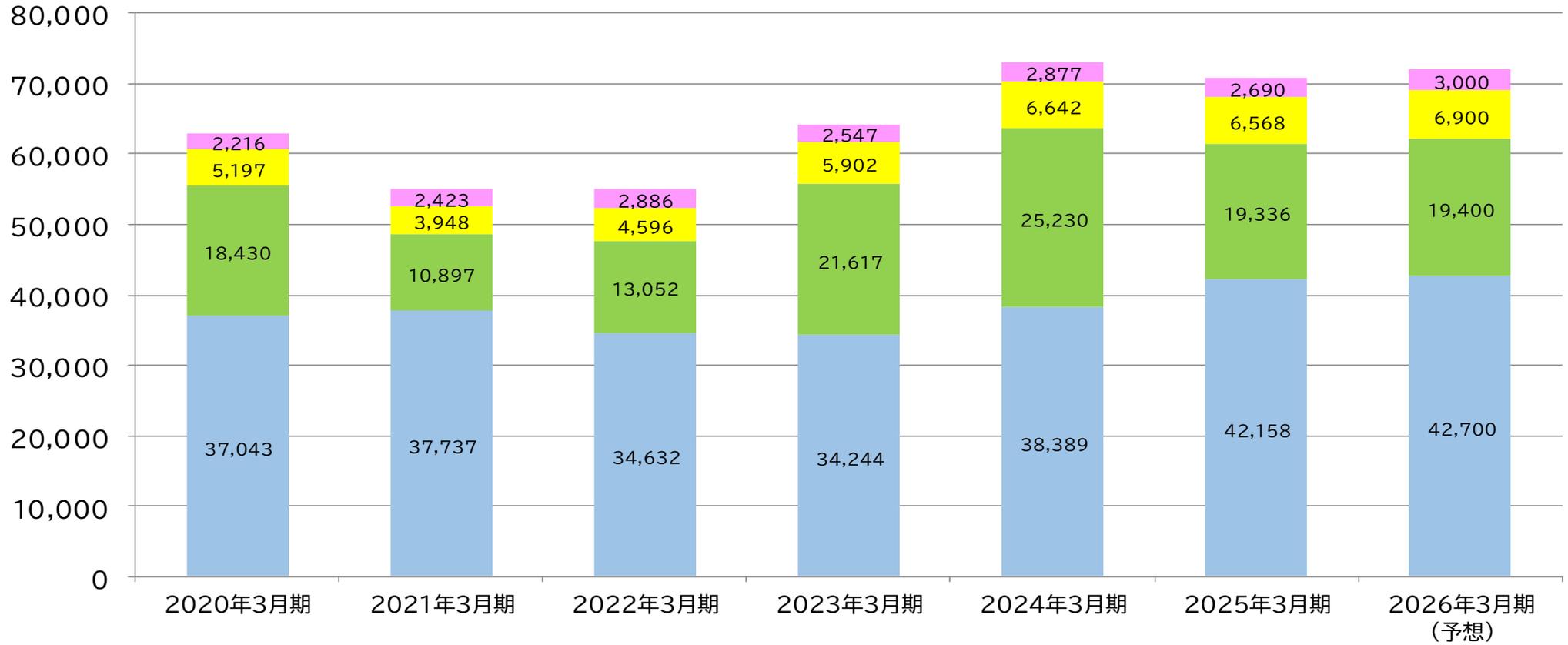
製品別売上

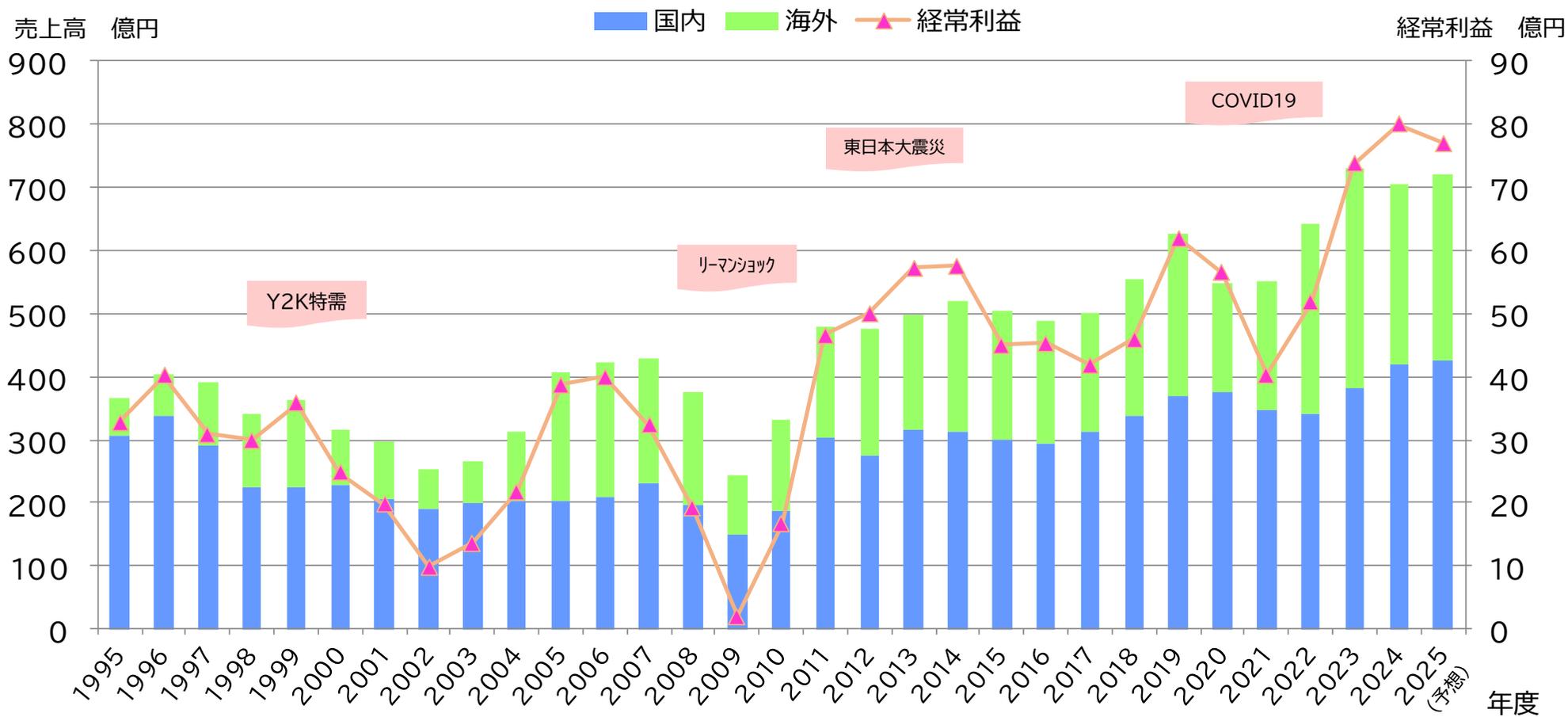
■ 発電機 ■ 溶接機 ■ コンプレッサ ■ その他



地域別売上

■ 国内 ■ アメリカ ■ アジア ■ 欧州他





壁を越える、原動力。

Denyo